

ユネスコ世界会議の開催

2014年の持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議の開催により、環境面における「人づくり」を多様な主体と連携・協働して取り組むことの重要性が再認識された。



全体会合の様子



歓迎レセプション



ESDあいち・なごや子ども会議



ESDイヤーキックオフイベント

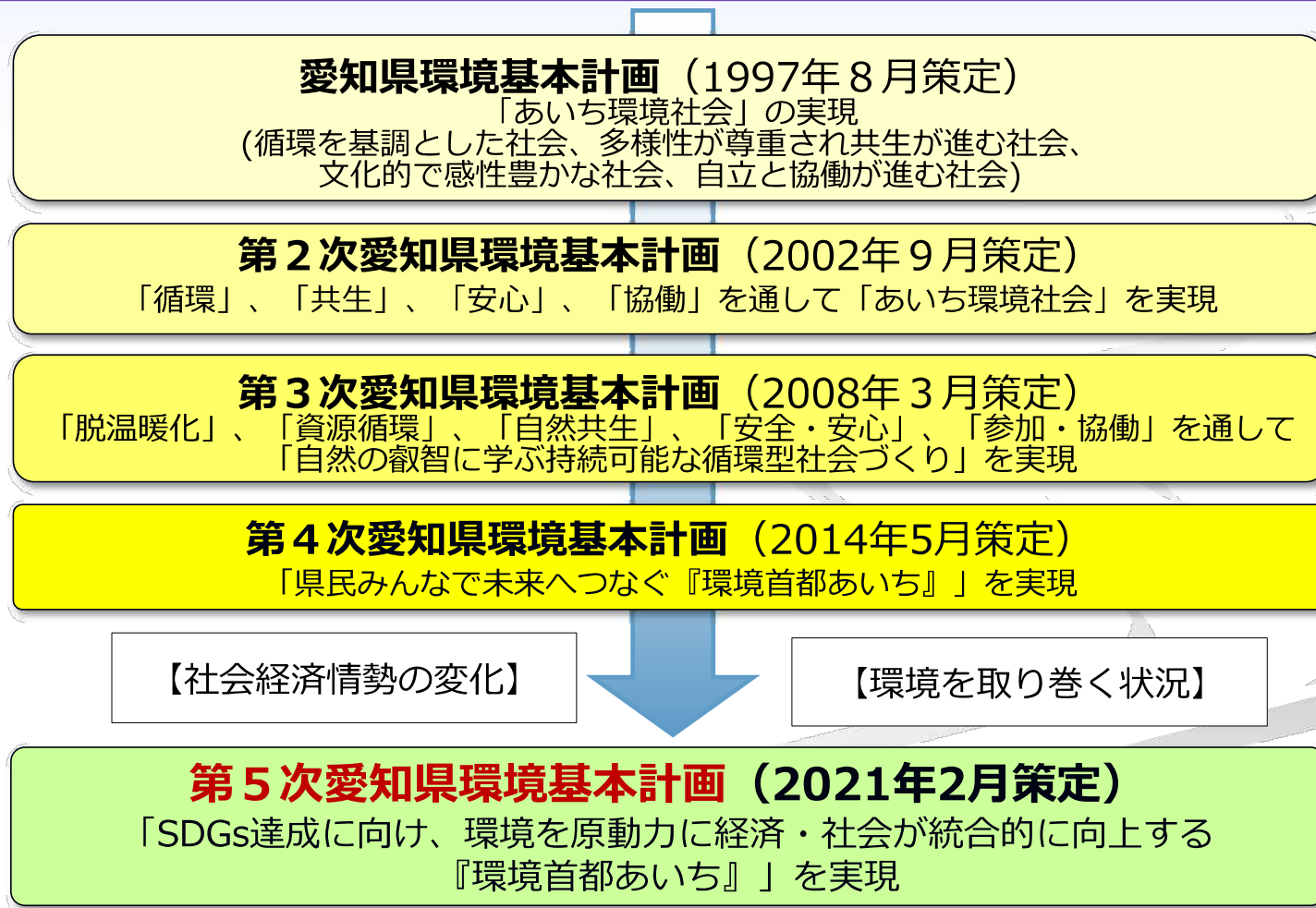
1 環境問題の変遷と環境政策

2 愛知県環境基本計画

3 環境局の主な取組

愛知県環境基本計画

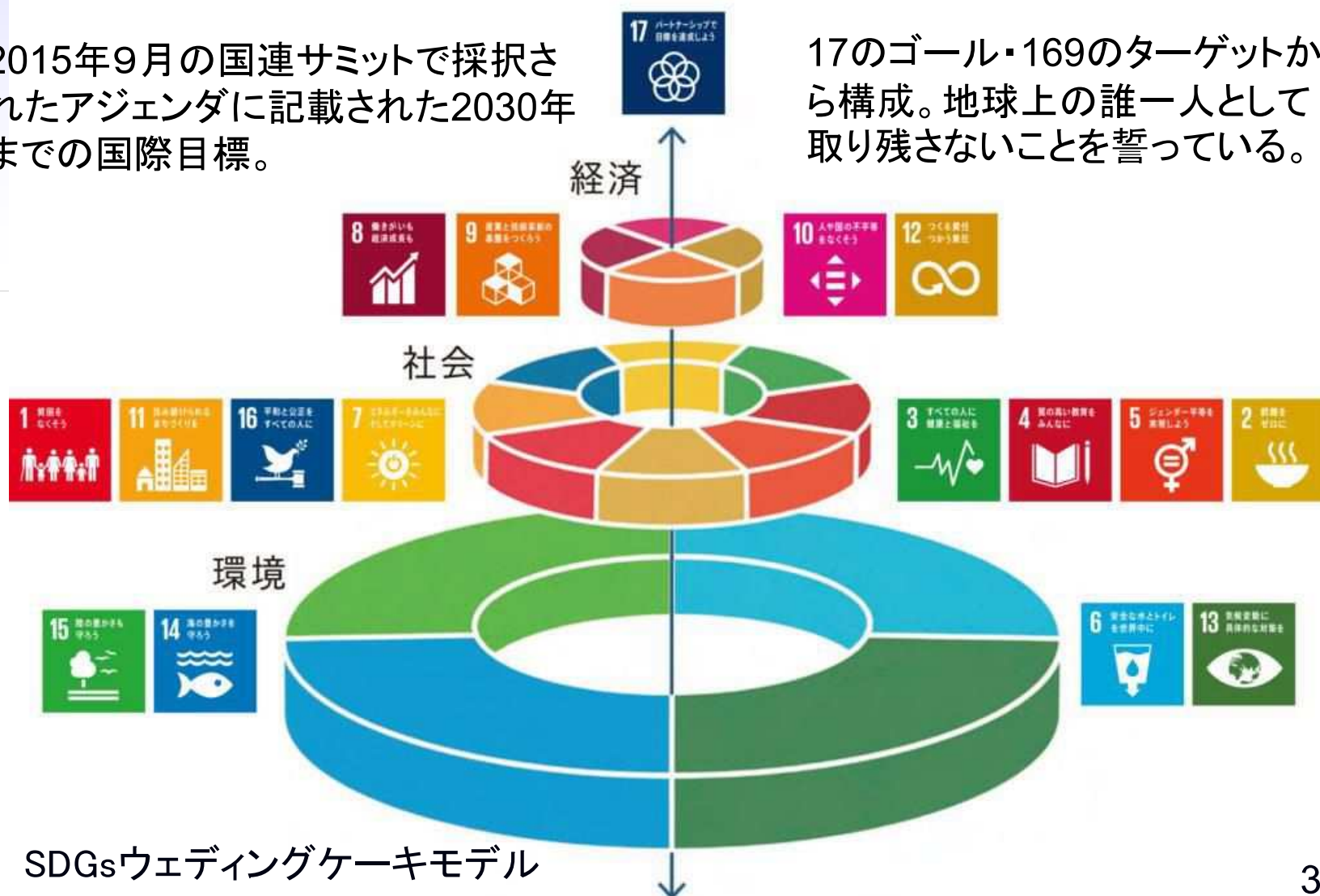
- 愛知県環境基本条例に基づき策定
- 本県における環境の保全に関する長期的な目標・施策の方向性を示すもの



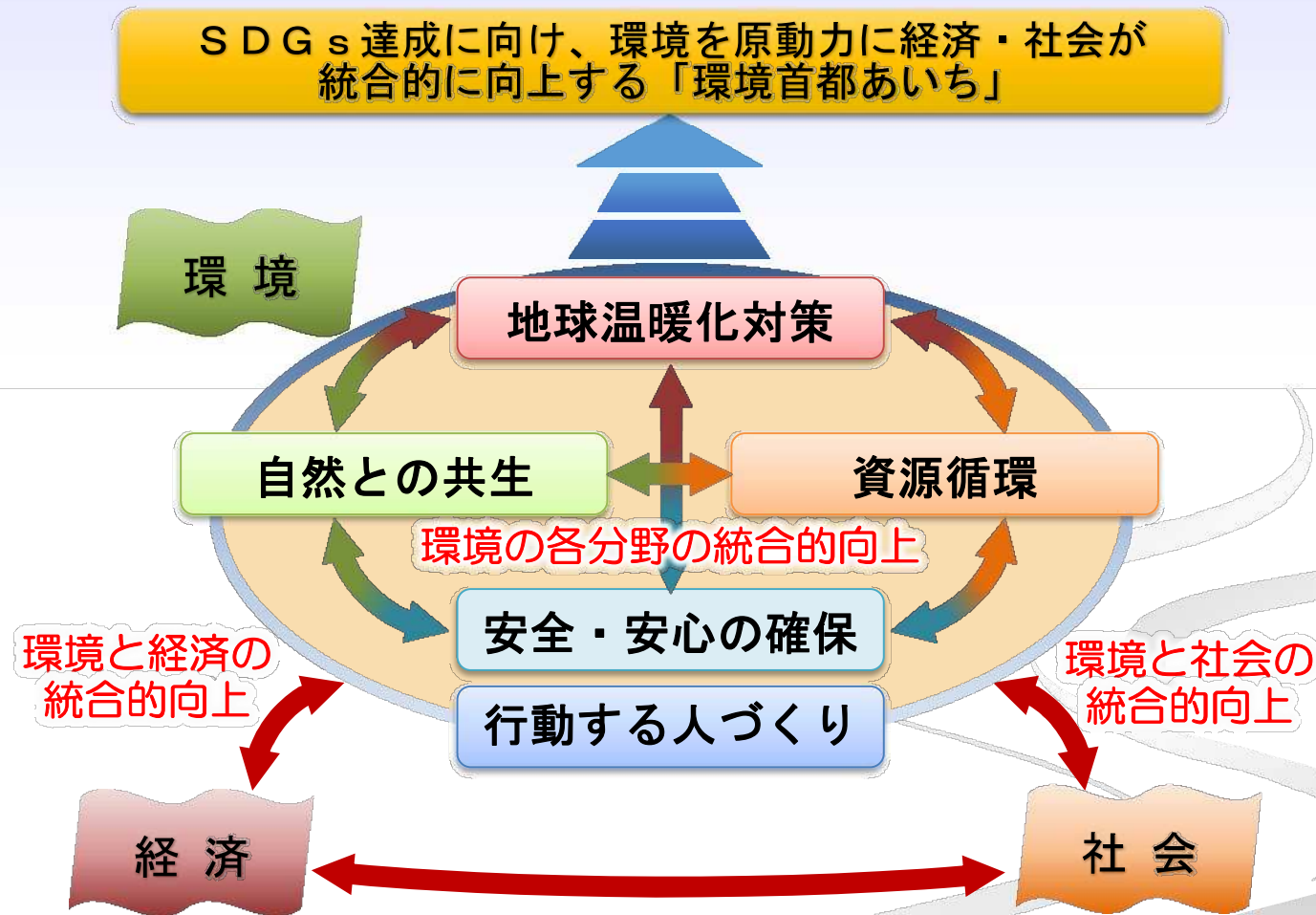
SDGs (Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標)

2015年9月の国連サミットで採択されたアジェンダに記載された2030年までの国際目標。

17のゴール・169のターゲットから構成。地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。



環境施策の展開イメージ



【目指すべき姿】

- 環境の各分野の統合的向上: 日本一環境にやさしいあいち
- 環境と経済の統合的向上: 環境と経済成長が好循環しているあいち
- 環境と社会の統合的向上: 地域が活性化している魅力あるあいち

第5次愛知県環境基本計画

重点施策の設定

複数の課題を統合的に解決する施策のうち、特にSDGsの多くのゴールに貢献する9つの施策を重点施策として位置づけ推進

- ① 再生可能エネルギーの導入拡大・徹底した省エネルギーの促進と環境産業の振興
- ② 次世代自動車の普及拡大
- ③ 「あいち方式2030」推進プラットフォームの構築
- ④ 地域循環圏づくり
- ⑤ プラスチックごみゼロ
- ⑥ 食品ロス削減
- ⑦ 海域の生物多様性や水産資源の生産性を考慮した水質改善
- ⑧ SDGsの普及促進
- ⑨ 誰もが学べるあいちの環境学習による人材育成と自主的取組の促進



1 環境問題の変遷と環境政策

2 環境基本計画

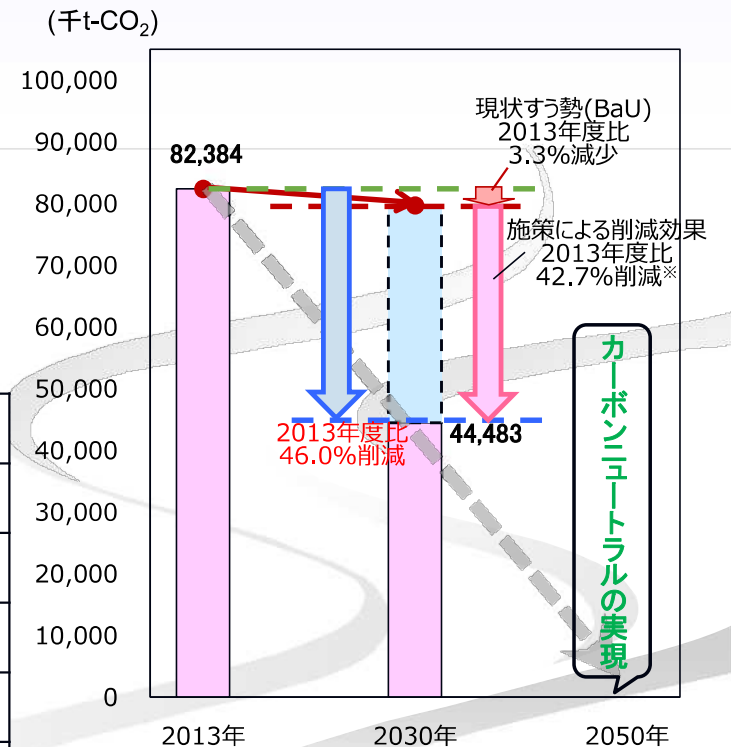
3 環境局の主な取組

ア 地球温暖化対策

あいち地球温暖化防止戦略2030(改定版)(2022年12月策定)では、2030年度の県内の温室効果ガス総排出量の削減目標を、2013年度比で、これまでの26%減から**46%減**に大幅に引き上げ、2050年までに**カーボンニュートラル**の実現を目指している。

- 目標の実現に向けて、以下の**6つの重点施策**を柱として、「**徹底した省エネルギー**」と「**創エネルギーの導入拡大**」を加速するとともに、「**愛知発の脱炭素プロジェクト**」等の取組を進めている。

重点1	脱炭素プロジェクトの創出・支援
重点2	意識改革・行動変容
重点3	建築物の脱炭素化の推進
重点4	脱炭素型事業活動の促進
重点5	ゼロエミッション自動車の普及加速
重点6	水素社会の構築



※施策による削減効果42.7%削減の内訳

- ・国の施策による削減効果: 38.4%減
- ・県の追加的な施策による削減効果: 4.3%減

ア 地球温暖化対策

重点1:脱炭素プロジェクトの創出・支援

あいちカーボンニュートラル戦略会議

- 本県のカーボンニュートラルの実現に向け、**革新的・独創的な民間の発想を活かした事業・企画アイデアを募集**
- 学識者で構成される「あいちカーボンニュートラル戦略会議」による事業化すべきプロジェクトの選定、具体化・実践

<2021年度選定>

- ・ 矢作川・豊川CN(カーボンニュートラル)プロジェクト
- ・ アジア競技大会選手村後利用事業における「街区全体で統一的に木造・木質化を図るまちづくり」プロジェクト

<2023年度選定>

- ・ CO2コンクリート固定化技術を用いた域内カーボンリサイクルプロジェクト
- ・ 荷主と運輸事業者等の連携による物流脱炭素化プロジェクト

<2024年度選定>

- ・ ペロブスカイト太陽電池普及拡大プロジェクト
- ・ 地産地消SAFサプライチェーン構築プロジェクト



矢作川・豊川CNプロジェクト
イメージ図

ア 地球温暖化対策

2024年度選定プロジェクト

ペロブスカイト太陽電池(PSC)普及拡大プロジェクト

【提案企業】 株式会社アイシン、中部電力ミライズ株式会社、関西電力株式会社

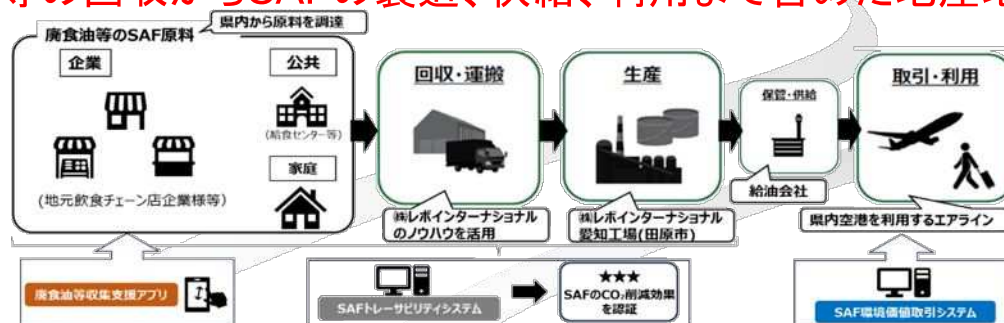
【概要】 ペロブスカイト太陽電池の導入モデルスキームを構築・横展開し、開発メーカーや発電事業者等の投資を活性化することで、全国に先駆けて社会実装する。



地産地消SAFサプライチェーン構築プロジェクト

【提案企業】 株式会社レボインターナショナル、株式会社NTTデータ

【概要】 原料となる廃食油等の回収からSAFの製造、供給、利用まで含めた地産地消サプライチェーンを構築



ア 地球温暖化対策

重点2:意識改革・行動変容

あいちCOOL CHOICE 県民運動

小学生等向け出前講座「ストップ温暖化教室」、「夏休み！おうちでエコアップ大作戦」等を実施



あいちエコアクション・ポイント

県民の環境配慮行動に対してポイントを発行し、脱炭素・循環型ライフスタイルへの転換や行動変容を促進

重点3:建築物の脱炭素化の推進

住宅用地球温暖化対策設備導入補助

県と市町村による協調補助を実施(2003年度～)補助メニューの追加を随時実施

重点4:脱炭素型事業活動の促進

事業者向け再エネ・省エネ設備導入補助

2022年度から国の交付金を活用して事業者向け補助を実施

中小企業等の脱炭素経営支援

- ・「あいち脱炭素経営支援プラットフォーム」を核として、地域ぐるみで中小企業等の脱炭素経営を支援(伴走型省エネ診断等)
- ・中小企業のSBT認定取得支援
- ・あいち省エネ相談

地球温暖化対策計画書制度

条例に基づき事業者は計画書等を提出し、県が評価・公表・助言を実施

あいちカーボンニュートラルチャレンジ

事業者がCO₂削減目標等を自ら宣言し、県が認定・公表を実施

ア 地球温暖化対策

重点5: ゼロエミッション自動車の普及加速

事業者のEV、PHV、FCVなどの先進環境対応自動車導入補助
(FCV・EV・PHV保有台数 51,000台 全国第2位 (2024.3月末))

自動車税種別割の課税免除

EV・PHV・FCVに対し、課税免除(購入年+5年)を実施。2012年1月開始



「プリウスPHV」



FCV「MIRAI(ミライ)」

EV、PHV充電インフラ整備促進費補助

2024年度から整備費を補助(1,633か所(2024.3月末))

水素ステーション整備費補助

(整備数34か所) 日本一 (2025.3月末)

燃料電池商用車燃料費補助

2025年度からFC商用車の使用者に充填する水素と既存燃料価格の差額を補助

重点6: 水素社会の構築

中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議

自治体や経済団体等が一体となり、水素及びアンモニアのサプライチェーン構築及び利用促進を図る

中部圏低炭素水素認証制度 再生可能エネルギー等を活用して製造したCO₂の排出が少ない水素を低炭素水素として認証・情報発信する制度

低炭素水素モデルタウン事業 (環境省委託事業) 水素ステーションを地域の水素供給拠点として、FCVだけでなく燃料電池・水素給湯器など、幅広い利用先に低炭素水素を供給するモデル事業

イ 自然との共生 ～生物多様性保全の取組～

○「人と自然が共生するあいち」の実現に向けて、県内における生物多様性保全の取組を推進

【愛知目標(目標年:2020年)】

- ・COP10(2010年 愛知県)で採択

【新世界目標(目標年:2030年)】

- ・COP15第2部(2022年12月 カナダ・モントリオール)で採択

ex:30by30(陸と海の30%以上を保全)

- ・多様な主体が参加する生態系ネットワーク協議会を、県内9地域で設立
(2024年3月末現在:301団体加盟)
- ・協議会ごとに、大学、NPO、企業、行政等による様々なコラボレーションを展開中

海外との連携

- ・国際自治体会議への参加

COP11
(2012年 インド)
COP12
(2014年 韓国)

- ・「愛知目標達成に向けた国際先進広域自治体連合」(GoLS)の設立(2016年8月)

構成: 愛知県、ケベック州等9団体
[2023年3月末現在]

- ・COP13(2016年 メキシコ)自治体連合として共同声明を発表
- ・COP14(2018年 エジプト)サブナショナル政府の役割の重要性を発信

あいち生物多様性戦略2030(2021年2月策定)

全ての主体がコラボレーション(協働)により生物多様性の保全を進める



重点プロジェクト(10項目)

A 湿地・里山ネットワーク	F 鳥獣の保護・管理の推進
B 希少な動植物の保全	G 事業者の保全活動の推進 (あいちミティゲーションの深化)
C 外来生物対策の強化	H あいちの自然体感の推進
D 地域の保全活動の更なる活性化	I 国際連携の推進
E 都市の自然の価値再発見	J 推進プラットフォームの構築

世界目標の
推進に貢献

COP16

(2024年10月
コロンビア)

- ・併催会議等で、愛知県・GoLSの取組を発信

COP15第2部

(2022年 カナダ)

- ・世界目標の達成に向けて、国際機関等と連携しながら、愛知県・GoLSとして引き続き活動していく意思を表明



※COP15第2部併催の第7回国際自治体会議にて、ビデオメッセージ発信

イ 自然との共生 ～生物多様性保全の取組～

生態系ネットワーク協議会

大学、NPO、企業、行政など
多様な主体の協働の場として、
県内全域をカバーする9地域で
生態系ネットワーク協議会を
設立（2011～2016年）



イ 自然との共生 ～生物多様性保全の取組～

あいち生物多様性企業認証制度

2022～2024年度の認証状況

区分	企業数※
優良認証	28社
認証	39社



生物多様性サポーター



イ 自然との共生 ～あいち森と緑づくり事業～

2009年度から「あいち森と緑づくり税」を創設。森と緑の持つ様々な公益的機能の発揮のため、森林、里山林、都市の緑を整備保全等の取組を推進

- ・奥地や公道・河川沿い等整備が困難な森林の間伐
- ・放置された里山林の再生

- ・都市の身近な樹林地の保全、緑地創出
- ・美しい並木道の再生
- ・県民参加での樹林地整備や植樹、緑づくり活動支援

- ・市町村、NPO等が行う環境保全活動や環境学習への支援

- ・森林整備技術者養成
- ・小中学校に県産木材製の学習机・椅子、下駄箱等導入



木の香る学校づくり



【奥地林の間伐】



【里山林再生整備】



【都市緑化】小学校校庭



【環境活動】苗木の植樹



【環境学習】水田で親子自然観察会

ウ 資源循環 ～愛知県廃棄物処理計画など～

廃棄物の減量化や資源化を推進し、また、最終的に残った廃棄物の適正な処理を確保するため、2022年2月に**愛知県廃棄物処理計画**を策定
県民、事業者、市町村、県等がそれぞれの責任と役割を認識し、相互に協力、連携して取組を推進

3Rの促進

各種リサイクル法の普及啓発、環境学習の促進、ごみゼロ社会推進あいち県民会議

排出事業者・処理業者に対する廃棄物の適正処理と監視指導の徹底

不適正処理の未然防止(監視パトロールなど)、排出事業者責任の徹底、優良産業廃棄物処理業者の育成、

非常災害時等における処理体制の構築

処理に係る基本方針(市町村連携、分別・選別の徹底と再資源化促進、民間との連携)

循環ビジネスの振興

あいちサーキュラーエコノミー推進プランの策定、あいち資源循環推進センターによる相談・技術支援

プラスチックごみ削減の推進、食品ロス削減の推進

ウ 資源循環 ～循環ビジネスへの支援～

○ 循環ビジネスの発掘・創出、事業化から円滑な事業継続まで、連続的で切れ目なく支援。

循環ビジネスの発掘・創出

- ・循環ビジネスセミナーや、環境先進企業の見学会等を実施する「循環ビジネス創出研究会」を開催
- ・循環ビジネス創出コーディネーターによる相談・技術指導
- ・Web「あいち資源循環ナビ」による情報提供



循環ビジネス創出研究会（現地見学会）

循環ビジネスの事業化

- ・先導的で効果的なリサイクル施設等の整備や循環ビジネスの事業化検討に対して補助

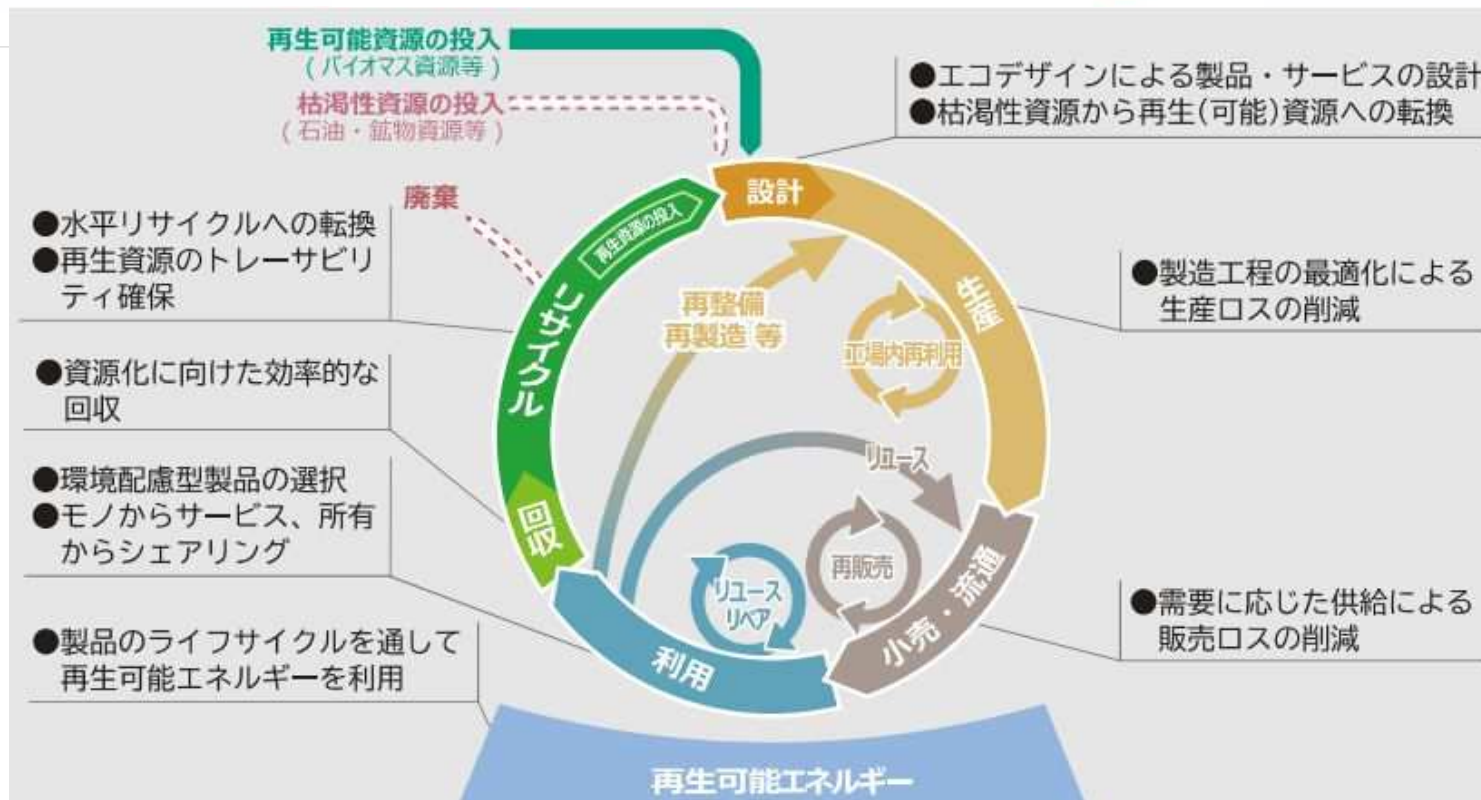
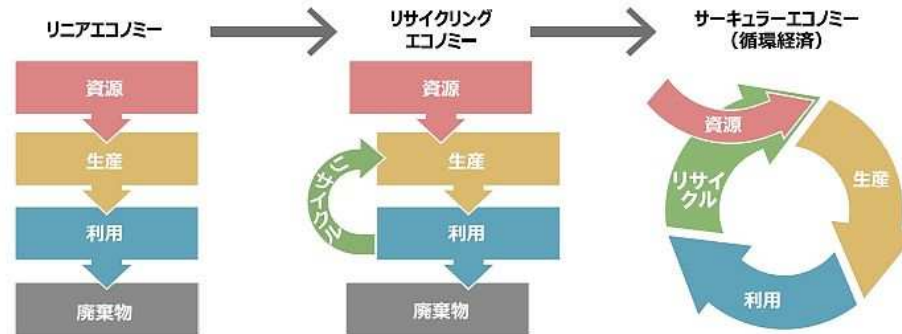
情報発信など事業の継続支援

- ・県庁西庁舎1Fに展示コーナーを設置
- ・「愛知環境賞」として優れた環境技術や環境活動を表彰し全国へ発信
- ・企業展示会に、愛知県が環境ビジネスコーナーを設け、中小企業のPRをサポート



西庁舎1F 展示コーナー

ウ 資源循環 ～サーキュラーエコノミーの推進～



工 安全・安心の確保 ～良好な環境の保全～

○ 安全で安心して暮らせる社会の前提となる大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、地盤沈下、騒音、振動、悪臭などへの対策を着実に実施。

大気環境・水環境の保全

- ・大気環境や水環境（河川、湖沼、海域）の監視・測定
- ・工場・事業場等への規制・指導
- ・アスベストの飛散防止対策



河川水質調査

土壌環境・地盤環境の保全

- ・地下水質の監視・測定
- ・土壌・地下水汚染の未然防止、汚染判明時の指導・調査
- ・地盤沈下、地下水位の監視・測定
- ・工業用水法、県条例等に基づく地下水揚水規制



愛知県環境調査センター

騒音・振動・悪臭の防止

- ・騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法に基づく市町村の規制の支援

環境汚染の基盤となる施策・その他

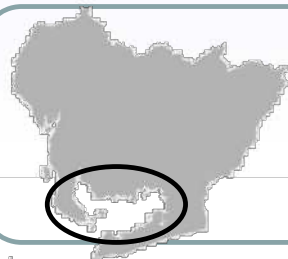
- ・公害防止協定の的確な運用
- ・環境影響評価制度の的確な運用
- ・PCB廃棄物の適正な保管および期限内処理の推進
- ・災害発生時における体制の強化



災害廃棄物図上演習

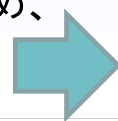
工 安全・安心の確保 ～三河湾環境再生プロジェクト～

○ 県民の里海である三河湾の環境を再生し、次の世代へ贈るため、多様な主体により「三河湾環境再生プロジェクトーよみがえれ！生きものの里“三河湾”」を実施。



三河湾に関心を持ってもらうため、

- ・三河湾を知ってもらう
- ・三河湾に触れてもらう
- ・三河湾の魅力を高める



三河湾の環境再生に向けて、事業を展開

- ・三河湾について知る、学ぶ機会の提供
- ・里海再生に向けた調査活動
- ・NPO等の活動支援

三河湾環境再生パートナーシップ・クラブ

- ・三河湾に関わるNPO、企業、業界団体、教育機関、行政等が連携・協働して、プロジェクトを推進
- ・2019年にシンボルマークとサポーターズカード作成

参加型イベント「三河湾大感謝祭」

- ・海の生きものに触れ合う展示、海の幸の試食等

三河湾環境学習会

- ・県立三谷水産高校の実習船「愛知丸」を活用し、水質・底質の調査など体験型学習会を実施

三河湾環境再生体験会

- ・干潟の生きものや水質浄化機能等の観察に加え、干潟の保全活動体験を盛り込んだ体験会を開催



シンボルマーク



サポーターズカード

オ 行動する人づくり ～誰もが学べる環境づくり～

○未就学児童から中高年・シニアに至る世代に応じた持続可能な社会を支える「人づくり」

<もりの学舎ようちえん>

四季を通じて自然を体感する
プログラムの実施

<指導者養成>

未就学児童向け
プログラムのノウ
ハウを習得



未就学児童

<環境学習講座>

「あいち環境学習プラザ」等
で実験等を交えた体験型の
環境学習講座

小・中学生
高校生



<もりの学舎キッズクラブ>

自然体験型の環境学習

<あいちの未来クリエイト部>

調査・研究とプログラム作成、活用・普及

<かがやけ☆

あいちサステイナ研究所>

パートナー企業から提示された環境課題に対し、
現場調査や企業の方とディスカッションし、解決策を
提案・発信

企業現場で
の研究活動



大学生

<あいち環境塾>

各分野で活躍する講師の講義や意見交換を行い、
未来社会へ向けての環境に関する政策や事業モデルを提言

社会人
中高年・シニア

<あいちecoティーチャー養成校>

中高年・シニア世代を環境学習の
講師として養成し、環境学習施設や
イベントなどで講座を実施



オ 行動する人づくり ～ SDGsの普及促進～

SDGs AICHI EXPO

～SDGs 子ども・ユースフェア～

日程：2025年10月3日（金）、4日（土）

場所：Aichi Sky Expo【愛知県国際展示場】

テーマ：子ども・ユース世代の力で進めよう

内容

企業、学校、NPO等によるブース出展

多様なステージイベント

企業等によるワークショップ

アジアの環境特別展

構成団体

愛知県

一般社団法人中部SDGs推進センター

環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）

日本青年会議所愛知ブロック協議会

NPO法人愛知環境カウンセラー協会

国際連合地域開発センター（UNCRD）

国際協力機構（JICA）中部センター 等



目的

- ・ SDGsの普及・浸透
- ・ 子ども・若者の行動変容の促進
- ・ アジア・アジアパラ競技大会を契機にアジアの環境問題等に関する意識の向上
- ・ 多様な主体のネットワーク化の促進



<https://sdgs-aichi.com/>

SDGsをみんなの手で



オ 行動する人づくり ～SDGs子ども・ユースフェア～



ブース出展

企業、NPO、大学・高校など
151団体がSDGsの取組を紹介



ステージイベント

お笑い芸人による楽しみながら
SDGsを学ぶステージ等を実施



ワークショップ

体験等を通じてSDGsを
学ぶワークショップを実施



エンディングセレモニー

ユースが一同にステージに集まりエンディングセレモニーを実施

あいち環境イノベーションプロジェクト

- 環境課題の解決に向けて、革新的な技術・アイデアを持つスタートアップ等と連携し、愛知発の環境イノベーションの創出・実装を目指す。
- 採択プロジェクトの伴走支援・実証実験を実施するとともに、「あいち環境イノベーションコンソーシアム」をプラットフォームとして、プロジェクトの社会実装に取り組んでいる。

採択プロジェクト

2024年度	熱を直接電気に変換する熱電発電システム実装 (株)Eサーモジェンテック 	次世代型バイオガス発電システム導入 (株)豊橋バイオマスソリューションズ 
	海面最終処分場におけるCO ₂ の回収・固定化 東洋建設(株) 	県民の環境行動に伴うCO ₂ 削減量の見える化 (株)スタジオスポビー
	リサイクル困難な炭素繊維強化プラスチックリサイクル (株)fff fortississimo	100%植物廃棄物由来内装材の製造・リメイク (株)Spacewasp 
	使用済み紙おむつマテリアルリサイクル サハシ特殊鋼(株)	ドローン・AIによる森林モニタリングシステム構築 DeepForest Technologies(株)
2025年度	カーボンクレジットによる再エネ・省エネ投資促進 (株)バイウィル	AIによるごみの分別・運搬ロボットの開発・実装 (株)Aladdin 
	CO ₂ を排出しない食品残渣等処理システム実装 (株)クロスイー	バイオテックを活用した油脂分解システム実装 (株)フレンドマイクロブ 

伴走支援



実証実験



環境イノベーションの創出・実装

あいち環境イノベーションコンソーシアム

[設立日] 2025年1月31日

[構成員] 企業、大学、金融機関、行政機関など 54団体



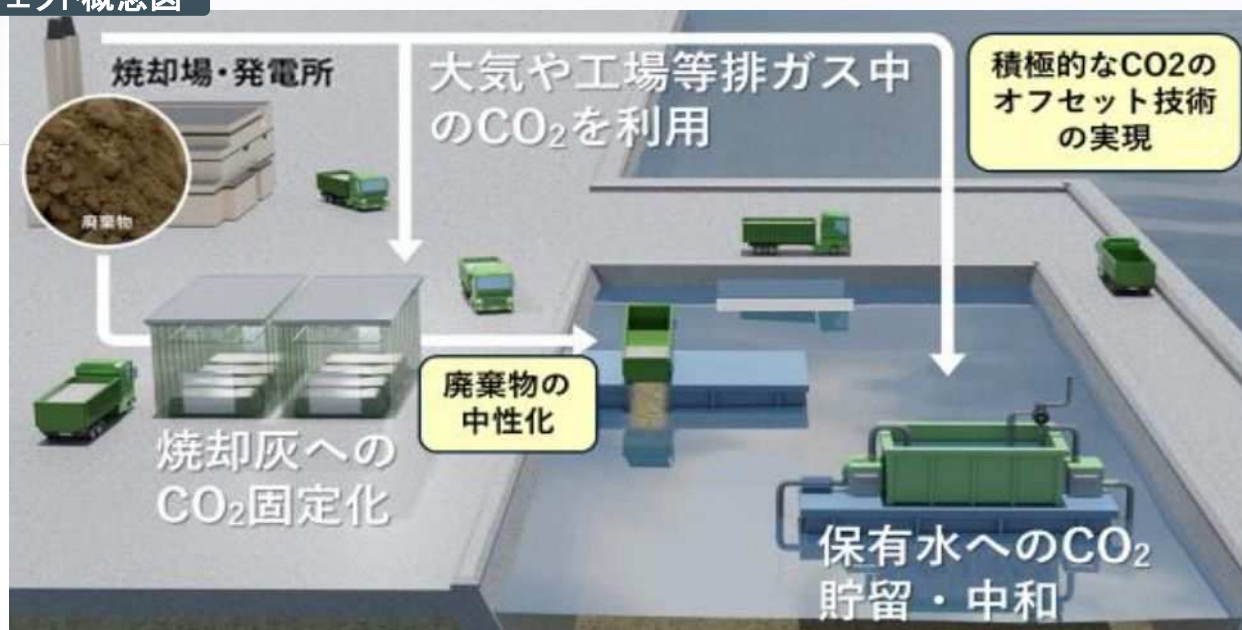
あいち
環境イノベーション
コンソーシアム
aichi environmental innovation consortium



海面最終処分場におけるCO₂回収・固定化プロジェクト

- 海面最終処分場の保有水(場内に溜まっている水)等に、工場の排ガスや大気から回収したCO₂を固定化するスキームを構築
- 保有水等は、高アルカリ性でカルシウム濃度が高い。この特性を利用して、CO₂を溶解しカルシウムと反応させて炭酸カルシウム化することによって、CO₂を固定化可能

プロジェクト概念図



2025年度実証実験

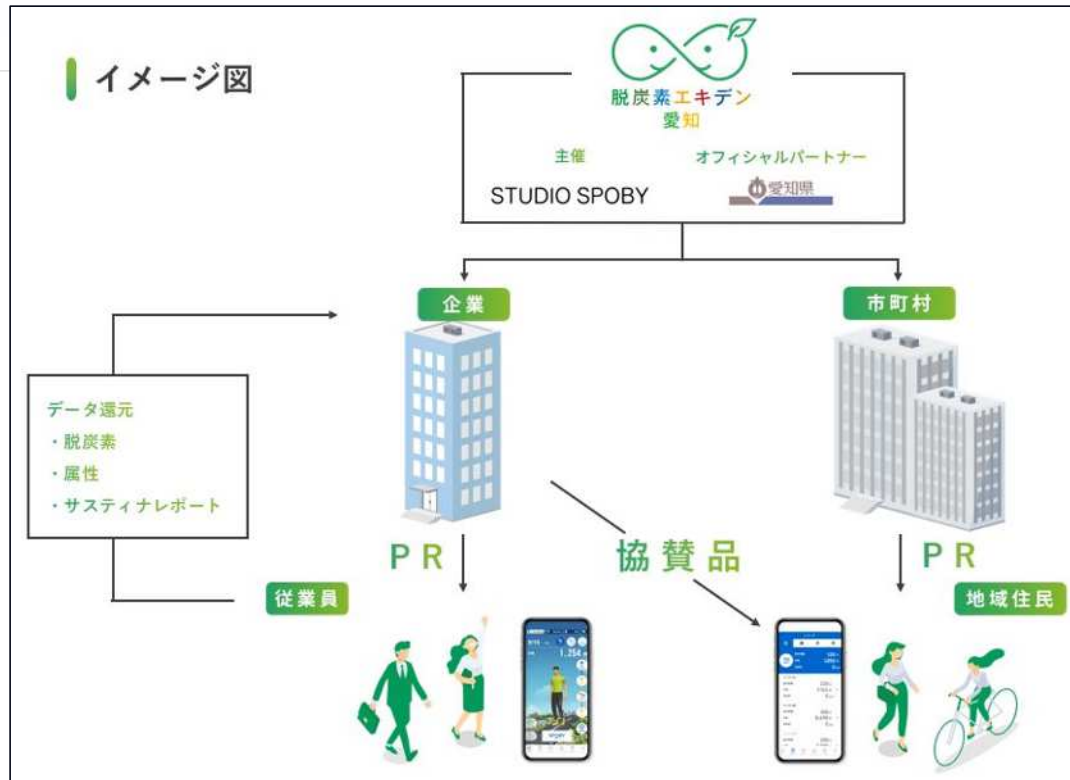
2025年9月から、衣浦港3号地廃棄物最終処分場において、保有水への効果的なCO₂固定化方法を検証する実証実験を実施



県民の環境行動に伴うCO₂削減量見える化プロジェクト

- 徒歩や自転車通勤、マイボトルの持参といった個人の脱炭素行動に伴うCO₂削減量を計測するアプリ「SPOBY(スポビー)」を活用し、個人の日常生活における脱炭素行動を促進
- スマホにダウンロードしたアプリを使ってCO₂を削減した場合、削減量に応じて様々な特典と交換可能

プロジェクト概念図



脱炭素行動の例



2025年度実証実験

2025年4月から、「脱炭素エキデン愛知」と銘打って実証実験を開始

特典交換会



ご清聴ありがとうございました。

